

紋 高 養 通 信

「卒業後の生活を真剣に考えました」

紋別高等養護学校1年生の生徒が、バスで北見市に出かけました。これは「社会見学」という行事で、障害者のための福祉施設や先輩が働いている職場を見学するものです。高等養護学校を卒業した後の進路について、学校の中で学習するだけでなく、実際の例を自分の目で見ることによって、理解をより深めることができます。

福祉施設では、ハムやソーセージの製造や、パン作り、またその材料となる家畜の飼育や野菜の栽培などを見学しました。パン工場では、できたてのパンを試食させてもらい、笑みがこぼれました。製品の種類や量、そして出荷先などについて生徒が質問をすると、施設職員の方が親切にやさしく教えてくれました。

午後からは、卒業生が就職しているクリーニングの会社を見学しました。大型の洗濯機や乾燥機などが大きな音でひっきりなしに動いています。プレス機に洗濯物を通しての従業員さんの手際の良さに、みんな目を見



張りました。屋内は機械の熱気でとても暑いですが、わき目もふらずに働いている先輩の様子は大変印象的で、生徒たちは「すごいなあ」と感心していました。

日帰りの学習でしたが、生徒たちは、自分の卒業後の生活について、普段の授業と違いより現実的に考えるよい機会になりました。

紋別養護学校通信

「同窓の集い・総会」

7月29日(日)、本校の卒業生や保護者、旧職員が集う「同窓の集い・総会」が開催されました。当日は雨に見舞われましたが、卒業生、保護者、旧職員など合わせて42人が元気な顔を見せてくれました。

同窓会の総会では、同窓会会長のあいさつ、今年度の中間収支決算報告、事業報告が行われ、参加者の皆さんは熱心に耳を傾けていました。

総会終了後は、参加者全員でレクリエーション行いました。今回は、虹色の大きな丸い布(バルーン)を使ったレクリエーションと、2チームに分かれてひも引きゲームを行いました。バルーンを参加者全員が持ち、曲に合わせて動いたり、ふわりと持ち上げたバルーンの下を卒業生が通り抜けるなど、大人数ならではのダイナミックな活動を行うことができました。

ひも引きゲームでは、参加者が2チームに分かれて長さが様々なひもを1人1本引き、つなぎ合わせた長さを競いました。ひもを引くたびに、ひもの長さに一喜一憂し、会場はとても盛り上がりました。最後にひもを結び合わせてみると、両チーム同じ長さになっていて、代表者による優勝決定戦を行うほどの大接戦でした。卒業生と保護者の皆さんの笑顔がたくさん見ることができたレクリエーションでした。



昼食と茶話会は寄宿舍食堂で行いました。久しぶりに訪れた寄宿舍では、「この部屋だったよね!」と、当時過ごした自分の部屋を懐かしげに見ていた卒業生もいました。茶話会では短い時間でしたが、懐かしい友達や教師との再会、そして新たな人との出会いがあり、どのテーブルでも話は尽きない様子でした。最後は全員で校歌を合唱し、名残惜しくも今年の「同窓の集い」は閉会となりました。

来年もこの会が思い出を語る場としての役割を果たすだけでなく、新たな出会いの場となって、今後の生活につながるような会になってほしいと願っています。

卒業生、保護者の皆さん、来年また元気な顔を見せてくださいね。楽しみにしています。「また会いましょう!」